

有明工業高等専門学校	開講年度	平成30年度(2018年度)	授業科目	体育実技
科目基礎情報				
科目番号	0055	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気工学科	対象学年	4	
開設期	前期	週時間数	前期:1	
教科書/教材	イラストでみる最新スポーツルール(大修館書店)			
担当教員	井上 仁志			

到達目標

1. 基本的なソフトボールの技術を身につけることができる
2. ベースボール型のスポーツの特性を理解できる
3. 作戦を活かした攻防を展開してゲームができる

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ベースボール型のスポーツの特性を理解し、基本的なプレーがゲーム中にできる。	ソフトボールのルールを理解して、10m程度で“あれば”意図したところに投げ“ることか”て“きる。”	ソフトボールのルールを理解して、10m程度で“も意図したところに投げ“ることか”て“きない。”
評価項目2	ベースボール型のスポーツの特性を理解し、ポジションに応じたプレーがゲーム中にできる。	ソフトボールのルールを理解して、20m程度で“あれば”意図したところに投げ“ることか”て“きる。”	ソフトボールのルールを理解して、20m程度で“も意図したところに投げ“ることか”て“きない。”
評価項目3	ベースボール型のスポーツの特性を理解し、作戦に応じたプレーがゲーム中にできる。	ソフトボールのルールを理解して、バントなど“か”て“きる。”	ソフトボールのルールを理解して、バントなど“意図したところに打つことか”て“きない。”

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A-1

教育方法等

概要	近い将来社会人になることを考え、個人のトレーニングと併せ社会性の育成を確立させる為に、運動量のあるチームスポーツ。一つに親しみ、職場における人間関係を円滑にする面や生涯スポーツ。一つの面からもレクリエーションスポーツ。一つに精通し、将来的に余暇を利用し、スポーツに興じ“ることか”て“きるよう”にしたい。更に運営や審判など“か”て“きるよう”にし、スポーツを通じて共同、責任、リーダーシップ等を身につける。
授業の進め方・方法	実技中心に進めていく ルールテスト、実技テスト有り
注意点	実技テスト評価 80%、小テスト評価 20%で“総合評価とする

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	シラバース説明	シラバースの内容を説明で“きる”
		2週	新体力テスト、集団行動	自分の現在の体力を確認で“きる”号令に合わせて(集団で)行進や方向転換など“か”て“きる”
		3週	新体力テスト、集団行動	同上
		4週	ソフトボールルール説明、キャッチボール	ソフトボールのルールを理解で“きる”自分の意図したところに投げ“ることか”て“きる”
		5週	キャッチボール、コロ捕球、フライ捕球	自分の意図したところに投げ“ることか”て“きる”正しい形で“捕球”で“きる”
		6週	キャッチボール、コロ捕球、フライ捕球、バッティング	自分の意図したところに投げ“ることか”て“きる”正しい形で“捕球”で“きる”自分の意図したスイング“か”て“きる”
		7週	キャッチボール、コロ捕球、フライ捕球、バッティング	同上
		8週	実技テスト	自分の意図したスイング“か”て“きる”
後期	2ndQ	9週	バッティング、ゲーム	自分の意図したスイング“か”て“きる”メンバーと協力してゲームが“て”きる
		10週	バッティング、ゲーム	同上
		11週	バッティング、ゲーム	同上
		12週	バッティング、ゲーム	同上
		13週	バッティング、ゲーム	同上
		14週	実技テスト	
		15週	ゲーム	メンバーと協力してゲームが“て”きる
		16週	ゲーム	メンバーと協力してゲームが“て”きる

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
			自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	1	
			目標の実現に向けて計画ができる。	1	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1	

			日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。 社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。 チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。 チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとことができ る。 当事者意識をもってチームでの作業・研究を進める能够在する。 チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。 リーダーがとるべき行動や役割をあげることができ る。 適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。 リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている 法令やルールを遵守した行動をとれる。 他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	
				1	
				1	
				1	
				1	
				1	
				1	
				1	
				1	
				1	
				1	
				1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0